

令和 8 年 第 1 回臨時会

副議長選挙に係る所信表明会会議録

令和 8 年 5 月 15 日 議 場

○副議長選挙所信表明

- 1 大滝国吉議員
- 2 上村正朗議員

村 上 市 議 会

令和8年村上市議会第1回臨時会 村上市議会副議長選挙に係る所信表明会

○議長（三田敏秋君） 暫時休憩いたします。
（午前11時08分）

○議長（三田敏秋君） それでは、これより副議長選挙に係る所信表明会を開会いたします。

議員各位に申し上げます。これから行う副議長選挙に係る所信表明は、地方自治法で規定している副議長選挙を変更するものではありません。所信表明の有無にかかわらず、全議員が選挙人であり、被選挙人でもあります。よって、所信表明者以外の議員に投票することも可能です。また、所信表明会においては、何人も拍手などにより賛意を表したり、所信表明会を批判したりしないように申し添えます。

所信表明の申出は、申出順に大滝国吉君、上村正朗君から提出をされております。

これより所信表明申出書の提出順に所信表明を行います。時間はそれぞれ5分以内でお願いをいたします。

最初に、大滝国吉君の所信表明を行います。大滝国吉君の推薦人は、尾形修平君、川村敏晴君、渡辺昌君であります。

それでは、大滝国吉君、登壇の上、所信表明をお願いします。

大滝国吉君。

〔18番 大滝国吉君登壇〕

○18番（大滝国吉君） ただいま御指名をいただきました驚ヶ巣会の大滝国吉でございます。本日は、村上市議会副議長選挙に当たり、立候補の所信表明を述べさせていただく機会をつくっていただき、これまで御努力されました方々に心から感謝を申し上げます。日頃より市民福祉の向上と本市の発展のために御尽力されている同僚議員の各位に深く敬意を表します。また、市政運営に御尽力いただいている市長をはじめ、理事者の皆様、市議会の活動を支えてくださっている事務局職員の皆様、市政を支える多くの関係者の皆様にこの場を借りて深く御礼を申し上げます。

私が副議長に立候補いたしましたのは、村上市議会がこれまで以上に開かれた議会、信頼される議会として市民の皆様の負託に応えていかなければならないと強く感じているからであります。人口減少や少子高齢化、地域経済の縮小、災害対応やインフラ維持など、本市を取り巻く課題は年々複雑さを増しております。こうした時期だからこそ、議会がしっかりと役割を果たし、市民にとって分かりやすく、透明性の高い議論を積み重ねていくことがこれまで以上に求められていると考えております。その中で、副議長は議長を補佐し、議会運営の円滑化を図ることはもとより、議会全体の合意形成に向けて各党派、各議員の皆様との橋渡し役を担うことが求められています。私は、その役を誠実に果たしたいと考えております。御承知のとおり、副議長は議長を補佐し、村上市議会の円滑な運営を図る立場であります。議長に事故あるときにはその職務を代行し、また議会の内外にわたって議会全体の意思が適切に伝わるよう努める役割を担っております。二代表制の一翼を担う本市議会が市民の負託に応え、信頼される議会であり続けるには、公正・中立な議会運営と分かりやすい情報発信がますます重要になっております。副議長として、その一翼を担う思いをしております。

本市を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少、地域経済の活性化、防災・減災対策、医療・福祉の充実など、待ったなしの課題が山積しております。加えて、地域コミュニティの維持や持続可能な行財政運営など、中長期的な観点で取り組むべきテーマも数多くあります。こうした中で、私たち市議会は市民の皆様の多様な声を丁寧に受け止め、市長をはじめ執行機関との建設的な議論を通じて、よりよい施策を形にしていかなければなりません。そのためには、対立や批判

だけにとどまらず、お互いの考えを尊重しながら合意形成を図る姿勢が不可欠であります。これまで議会活動の中で、市民の皆様からいただいた一つ一つの声を大切に活動を重ねてまいりました。この姿勢を決して忘れることなく、議長を支え、執行部と誠実に向き合いながら議会運営に当たる所存です。同時に他市議会や広域の議長会等での取組にも目を向け、本市議会に生かせる好事例を積極的に学び、導入してまいりたいと考えております。村上市議会がこれまで先輩方の御尽力により築いてこられた伝統と信頼をしっかりと受け継ぎ、「所信表明時間終了のブザーあり」時代の変化に応じた議会改革に前向きに取り組んでまいりたいと思います。どうか議員各位の御理解と御支援を賜り……

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君、時間です。

○18番（大滝国吉君） 心よりお願いを申し上げます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君は、演壇にとどまってください。

これから大滝国吉君の所信に対する質疑を行います。質疑は、質問席にて所信表明者1人につき、議員1人3回までといたします。

質疑のある方は挙手をお願いいたします。

16番、姫路敏君。

○16番（姫路 敏君） 大滝議員、御苦労さまでございます。基本的には、議長と似たような質問を3問したいと思いますが、大滝議員も平成28年ですか、5月から10年間にわたって副議長職をやってまいりました。その中で、いろんなことを経験しながら議長を補佐して、私はやってきたことはそれなりの評価はしておるつもりではございます。ただ、先ほども言うように、やっぱり長いというところが非常に私は引かかるのです。どうしても議会の活性化を目指すには、2年という区切りで申合せしてきた村上市議会でございますので、できれば後任というのですか、そういった人を育てる意味でも、自分が培ってきたものをアドバイスしながらやっていてもらいたいなど、こういうふうに思うわけなのですが、その辺のところについての見解をちょっとお聞きしたいのですが。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○18番（大滝国吉君） 私もその辺については十分考えました。今回のことも副議長の立候補に当たりまして、いろいろ皆様と相談をしながら取り組んでまいりました。なかなかそういう方々が私の周りにはなくて、また我々の仲間同士の中にはぜひやってほしいという声も多く聞かれました、また今回立候補した形となっております。

○議長（三田敏秋君） 姫路敏君。

○16番（姫路 敏君） 分かりました。いろんな意味でいくと、今の発言を聞くと仲間内でいろいろ決めているということらしいのですけれども、それはそれとして、私は活性化のためにはひとつ一歩引いた上でそういう逆に言えば自分が培ったものを出せるアドバイザーでいてもらいたかったなというのはあります。しかしながら、こうやって所信表明してやろうとしているわけですから、それは否定するものではございませんが、先ほども言いました、地方議会というところは与党、野党とかはございません。いわゆる二代表制の下で議会運営がなされていく。市長は市長、議会は議会として運営していくわけでございますけれども、そのところに当たって副議長の立場としてどんなふうにそれに対応していくのか、この辺のところをちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○18番（大滝国吉君） 私も市長、議会、市執行部というのは、やはり二代表制でこれからは議会は議会の立場がありますので、議会の皆さんがいろいろ考えたことをまとめ、そして市といろいろな協議をしていくというのは私も重要だと考えていますので、その辺のところはこれからも

重視して、議員一人一人の考えをよく引き出せるような機会を持っていけるような体制づくりを心がけていきたいと、こう感じております。

○議長（三田敏秋君） 姫路敏君。

○16番（姫路 敏君） 先ほどもちょっと言いましたが、議会の議員の基本条例、議会基本条例の9条に市長と、そして議会、これは緊張感のある立場で物をしていかななくてはいけないというところがございますが、これは二代表制というそのものがそういう形の中で表れるのだろうなとは思いますが、その件について見れば副議長にもしなれたら、その基本条例の9条についてどういうふうに考えているかお聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○18番（大滝国吉君） 今ほども言いましたけれども、二代表制の中でそういう立場をしっかりと重視し、議員の皆様が一人一人が考えていることをしっかりとまとめ、それを議会に反映するような形を取り組むような仕組みを構築していきたいと、このように感じております。

○16番（姫路 敏君） ありがとうございました。

○議長（三田敏秋君） ほかにございませんか。ございませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（三田敏秋君） それでは、大滝国吉君は降壇し、議席へお戻りください。

次に、上村正朗君の所信表明を行います。上村正朗君の推薦人は、富樫光七君であります。

それでは、上村正朗君、登壇の上、所信表明をお願いします。

上村正朗君。

〔5番 上村正朗君登壇〕

○5番（上村正朗君） おはようございます。新緑会の上村正朗です。市議会副議長選挙の実施に当たり、就任を希望する者としての所信を表明させていただきます。

現在本市は、人口減少や少子高齢化が進行し、介護、子育てや地域経済、教育、地域コミュニティ等々、様々な分野で問題が山積しています。その中で、市議会は地方自治法が定める二代表制の下、市長と対等な立場に立ちながら、地域や姿勢の課題解決に向けて積極的に取り組むことが求められています。一方で、市民の皆様からは議会の姿が見えない、議会は何のためにあるのか、議員は今の半分でもよいなどなどの厳しい声が聞こえてきます。議会が単なる議決承認機関ではなく、具体的な政策提言ができる議会とするために改革に取り組む必要があると考えます。

取組の一例として、次のようなことを考えています。市議会の存在意義が感じられなくなる原因の一つは、市民との意見交換、一般質問、委員会の調査、予算審査や決算審査、討論、意見書提出などという議会の諸活動がそれぞればらばらな行為となってしまうことにあります。市民の意見や要望を聴いても、一般質問で取り上げられて終わる。一般質問で鋭い問題提起がなされても、委員会で継続的に検証されない。委員会の調査が予算、決算の審査や政策提言になかなかつながらない。こうした状態では、市議会の中に政策形成の回路は生まれません。結果として、個々の議員の活動が議会全体の取組に結びつかず、市民から見れば市議会が何をしているか見えないという状態になっていると考えます。

そこで、必要となるのが市議会の各活動を一つの流れとしてつなげる設計です。例えば一般質問で示された論点の中で、議会全体の問題意識として共有して取り組む必要があるものについては、委員会がそれを受け止め、所管事務調査の対象と位置づける。そこで理事者から追加説明を求め、必要な資料を集め、他自治体の取組や専門家の知見も踏まえながら委員会報告や政策提言にまとめる。そして、その提言が次の予算審査や条例制定、議会としての意見表明につながるようにしたらよいのではないかと考えます。議会がチーム議会として有機的に機能して、市政や地

域の課題解決に向けて効果的に活動できるよう取組を進めたいと思います。そのほか、通年制議会の実施や委員会活動の強化、広報広聴活動の充実、子供議会や女性議会、夜間議会の開催、議場でのコンサートの開催など、市民によく見え、理解してもらえる市議会を目指したいと考えています。副議長は、議長を補佐し、円滑かつ公正な議会運営を支えるとともに、課題解決型の議会改革に向けて連携して取り組む立場だと考えます。私は、会派や立場の違いを超え、丁寧な対話と公平な姿勢を心がけながら議会全体の運営に努めてまいります。

最後に、議員各位のお力添えを賜りますように心よりお願い申し上げまして、私の所信といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（三田敏秋君） 上村正朗君は、演壇にとどまってください。

それでは、これから上村正朗君の所信に対する質疑を行います。御質疑のある方は挙手をお願いします。

16番、姫路敏君。

○16番（姫路 敏君） 上村議員、御苦労さまでございます。それでは、先ほど議長の選挙というか、ときに尾形議員から同じ会派で正副議長を表明をしてくるというのは、これはちょっと違和感を感じるということと言われておりました。私は、全くそういう感じはしませんが、せっかくですので、1つは副議長の仕事って何なのだろうって。もう一つは、そういう違和感についてどういうふうにお考えか聞かせてもらいたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 上村正朗君。

○5番（上村正朗君） 姫路議員の質問にお答えしたいと思います。

副議長の主な仕事、たくさん仕事あると思いますけれども、主な仕事は議長を補佐し、連携して議会の効率的で民主的な運営を行うこと及び議会改革に積極的に取り組むことだと考えます。同じ会派から2人出るというのは、言われてみれば、なるほど、そういう指摘もあるのかなと思いましたけれども、私どもの新緑会というのは非常にもともと自由な会派です。自由な議論を行って、各議案に対する賛否の態度についても会派の拘束というのは全くしない、個々の議員の良心に従って行動するという会派ですので、もともとそういう問題があるというか、いうことについてはあまり問題意識がなかったといえますか、会派が同じであっても会派を抜けてもいいですし、ほかの会派だからといってそれを公平に取り扱わないということも全く毛頭考えておりませんので、そういうふうに御理解いただければなというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 姫路敏君。

○16番（姫路 敏君） 先ほど大滝国吉さんから副議長の所信表明に当たってみれば、自分の友好的な議員さんとも話し合ったと、それは当然なのでしょうけれども、旧村上市議会のときは面白いことに正副議長を全員で考えていたような時期もございました。いわゆる主流派から議長を出して、非主流派から副議長を出すなんていうような、そうするとまとまるときは全体まとまるのです。すばらしいなとは思っておりました。でも、新市になって今になってみれば、そういうことは一切ないです。何の音沙汰もなく、数の理論で全部いくというのは、私は物すごく抵抗があるのです。それにしても、上村議員、もし副議長に当選したら10年以上副議長をやろうと思っておりますか。

○議長（三田敏秋君） 上村正朗君。

○5番（上村正朗君） 10年たつと80ですので、どうかなと。この2年間は、やっぱり職務を真摯に取り組んで、基本2年の任期で後任の方に席を譲ると、そういう気持ちで現在はおります。

○議長（三田敏秋君） 姫路敏君。

○16番（姫路 敏君） 分かりました。それでも、周りから、いや、上村さん、悪いけれども、また副議長をやってくれというような声为上村さんに上がってきたらどうします。

○議長（三田敏秋君） 上村正朗君。

○5番（上村正朗君） 非常に困る質問ですけれども、そう言われることは非常に光栄なことだとは思いますが、やはり20人、皆さん非常に優秀な議員の同僚の方がいらっしゃいますので、後継者を育成と言うと非常におこがましいですけれども、後継者になっていただく方をちゃんと準備といいますか、お願いをして、後継者を得て2年でしっかり交代したいなど、今はそういうふうに考えております。

以上です。

○16番（姫路 敏君） ありがとうございます。頑張ってください。

○議長（三田敏秋君） ほかにございませんか。ございませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（三田敏秋君） これで上村正朗君の所信に対する質疑を終わります。

上村正朗君は降壇し、議席へお戻りください。

以上で副議長選挙に係る所信表明会を閉会といたします。

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

（午前11時32分）